

2024年1月

第160号

# ぱれっと



(株)北日本ベストサポート

TEL 018-883-1888



## 年頭に当たって

新年あけましておめでとうございます。今年は辰年。竜は、想像上の動物で、インドでは仏法を守るものとして、竜王または竜神と称し、中国では、鳳・麟・亀と共に四霊のひとつとされています。地上では深淵または海中に潜み、時には自由に空中を飛翔して雲を起し雨を呼ぶといわれ、力強く隆盛な1年となることが期待されます。さて、去年はどんな1年であったでしょうか、振り返ってみたいと思います。

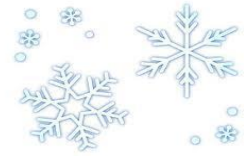
世界では、ロシアがウクライナに侵略戦争を引き起こしてから間もなく2年を迎えようとしていますが戦況は膠着状態が続き終戦の兆しが見えてきません。そうした中、10月にはパレスチナ自治区を実効支配するイスラム主義組織ハマスがイスラエルを越境攻撃し外国人を含む240人を人質としたため、イスラエル軍がガザへの空爆や地上侵攻で報復しハマスを壊滅させるまで戦う姿勢をみせ、こちらも戦争終結のめどが立っていません。パレスチナとイスラエルの関係は歴史的にも深い怨念があり和平への道のりは予測できない状態となっています。

また、自然災害が多発した年でもありました。2月にはトルコ・シリアで大地震があり5万人超の人が亡くなりました。さらに8月にはハワイ・マウイ島で大規模火災が発生、9月・10月にはモロッコとアフガニスタンで大地震発生。9月にはリビアで大洪水に見舞われるなど、戦争と災害が特に目立った年のように思います。

日本ではスポーツや文化面で明るいニュースがありました。3月、野球の国・地域別対抗戦「ワールド・ベースボール・クラシック」(WBC)で栗山監督率いる「侍ジャパン」が14年ぶり3度目の優勝を果たしました。また、米大リーグの大谷翔平選手が日本人初の本塁打王となり、投手として10勝を挙げ史上初の2年連続「2桁勝利・2桁本塁打」を達成、11月にはこれも史上初となる満票でアメリカン・リーグ最優秀選手(MVP)に輝き、12月に入って来シーズンはロサンゼルス・ドジャースに移籍が決まりその契約金も10年で総額7億ドル(約1015億円)とこれも史上最高額で決着しました。将棋の世界では10月に王座戦が行われ藤井聡太竜王が勝利し、将棋界初の8大タイトルを独占する快挙を成し遂げました。

去年は全国的に記録的猛暑日が続いたほか、大雨にも見舞われ秋田市では河川の氾濫、内水氾濫等の現象が見られ市内が床上浸水や車両の水害事故が相次ぎ、猛暑などの異常気象から植物にも異常が見られ熊の餌となるドングリの実が不足し熊が市街地まで出没する事態となりました。異常な事件としては闇バイトの強盗、指示役「ルフィ」をフィリピンで拘束、強制送還逮捕。ドバイからのネット脅迫のガーシー前参議院議員(一度も議会に出席せず)が逮捕されるなどのほか、年度末には自民党の安倍派裏金疑惑で4閣僚が交代するなどのあわただしい年末を迎えることとなりました。

今年の辰年はぜひ「異常」といわれる言葉が使われずに済むような、穏やかな1年であって欲しいと願わずにはられません。



## 「~のために」行うことをやめる

どれほど良いことに見えても、「~のために」行うことは、卑しく貪欲なことだ。

誰々のためにであろうとも、何々のためにであろうとも、それが失敗したと思えるときには相手、もしくは事情や何かのせいにする心が生まれるし、うまくいったと思えるときには自分の手柄だとする慢心がうまれるからだ。

つまり本当は自分のためにだけ行っているのだ。

けれど、純粹に能動的な愛から行われるときには「~のために」という言葉も考えも出てくることはない。

【ツアラトウストラはかく語りき】

## 高まるために捨てる

人生はそれほど長いものではない。夕方に死が訪れても何の不思議もない。だから、わたしたちが何かをなすチャンスは、いつも今この瞬間にしかないのだ。

そして、その限られた時間の中で何かをなす以上、何かから離れたり、何かをきっぱりと捨てなくてはならない。しかし、何を捨てようかと悩んだりする必要はない。懸命に行動しているうちに、不必要なものは自然と自分から離れていくからだ。あたかも、黄色くなった葉が樹木から離れ去るかのようだ。

そうして私たちはさらに身軽になり、目指す高みへとますます近づいていくことになるのだ。

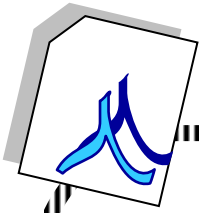
【悦ばしき知恵】

## 賢さは顔と体に表れる

賢明に考える習慣を持つと、そのうち顔が賢そうな輝きに満ちてくる。表情ばかりか、体の見た目も賢そうになってくるのだ。たとえば、他人から見て動作や姿勢のあり方にシャープな感じが出てくる。

どのような精神を持つかによって、人間の外観もまた変わってくるのだ。元気な人が活発に歩くように、悲しみと失意を秘めた人がとぼとぼと歩くように。

【人間的な、あまりに人間的な】



## 道元（日本における曹洞宗の開祖・鎌倉時代初期の禅僧）

- 正治2年1月2日(1200年) 京都公卿の久我家(村上源氏)に生まれ、父は内大臣の源通親、母は太政大臣松殿基房の娘藤原伊子とされている。
- 4歳で漢詩「百詠」、7歳で「春秋左氏伝」9歳で「阿毘達磨俱舍論」読んだ神童であったとされる。
- 建暦3年(1213年) 天台座主公円について出家し、仏法僧道元と名乗る。
- 貞応2年(1223年) 明全とともに博多から南宋わたり、中国曹洞禅「只管打坐」の禅を如浄から受け継いだ。
- 安貞元年(1227年) 帰国。京都に興聖寺を開き、「正法眼蔵」の最初の巻の執筆を始める。
- 寛元2年(1244年) 傘松に大佛寺を開き、2年後永平寺と改める。
- 建長5年8月28日(1253年) 病により永平寺住職を、弟子の懐奘に譲り没す。享年53歳。
- 寛永7年(1854年) 孝明天皇より「仏性伝東国師」、明治12年(1879年) 明治天皇より「承陽大師」の大師号を宣下される。

### 教義・思想

ひたすら座禅するところに悟りが顕現しているとする立場で、成仏とは一定のレベルに達するすることで完成するものではなく、たとえ成仏したとしても、さらなる成仏を求めて無限の修行を続けることこそが成仏の本質である。釈迦に倣い、ただひたすら座禅に打ち込むことが最高の修行であると主張している。

### オススメの *BOOK*



#### 「旅する知」（世紀をまたいで、世界を訪ねる）

作者 船曳 建夫 発行 海竜社

作者は1948年東京都生まれ。東京大学名誉教授。文化人類学者。  
著者は世界各国を探訪し、人間の自然性と文化性、礼儀と演劇の仕組みなどを研究している。  
本書は約10年前に発行されたものでサンクトペテルブルグ(ロシア)・ニューヨーク・パリ・ソウル・ケンブリッジなどの旅をした時の人々の振る舞いや言動からその国の人々の気質を浮かび上がらせてくれる。  
単に旅行の楽しみ、景色などを見つめるものから、視点を変えてみるその国の人々のものの考え方や生活習慣など、世界の人々の相違を知ることも面白い。

## 職場の教養



### 新しい芽

(希望を掲げてスタートを切りましょう)

新しい年を迎え、「あけましておめでとうございます」という挨拶が交わされることでしょう。

語源は諸説ありますが、「お互い無事に新しい年を迎えられて、めでたいことです」という意味が込められていると言われます。

「めでたい」は「喜ばしい」という意味があり、就職や結婚、誕生日など、誰かを祝う際には「めでたい」、「おめでとう」という言葉がかけられます。また、特に妊娠や出産などを称して「おめでた」と言います。

「めでたい」という言葉は、当て字で「芽出度い」とも書きます。新年を迎えたり、出産して新しい家族ができたりすることは、「新しい芽が出た」ともとらえられるのではないのでしょうか。

令和6年が始まりました。家族や同僚など、自分にかかわる人の幸せを願うとともに、一人ひとりが目標を持ち、その芽を育てて花を咲かせ、実を結ぶ、そんな一年としたいものです。

職場の教養 1月1日より

### 寒さを受け入れる

(受容の精神を培いましょう)

冬本番となる1月は、厳しい寒さが続くため、苦手とする人も多いようです。また、地域によっては豪雪にみまわれることもあり、過ごしやすい季節とは言い難いかもしれませぬ。

四季の巡りは、連綿と続いてきた自然のサイクルであり、私たちの意思で変えることができないものです。しかし、歯を食いしばるようにして我慢をすると、ストレスを溜め込んでしまいかねませぬ。

そこで肝要なのが、「受容する」姿勢です。寒さを大自然の働きと受け入れ、厚着をしたり暖房を適切に使ったりすることで健やかな心を保つことができます。

また、冬の良い点を見つけることも寒さを受け入れる近道です。鍋物などの温かい食べ物が美味しい季節でもあり、冷たく澄んだ空気は、身を引き締め清々しい気持ちにさせてくれるととらえることもできるでしょう。

変わりゆく自然環境の中をどのような思いで過ごすかは、私たちの心次第です。寒さを受け入れ、より朗らかな気持ちで生活してまいりましょう。

職場の教養 1月2日より

### 【編集後記】

新年には毎年今年こそはあれましょう、これましょうと、夢いっぱい胸が膨らむ。

しかし時間が経過するうちに年初で今年こそはと考へた計画はるか彼方へ消え去ってしまう。

今年こそはと大きな計画に挑戦することも大切なことだが、まずは、健康で家族・社員一同が幸せな1年であったと感謝できる1年であって欲しい。